

令和2年度

# 授業改善推進プラン



## 立川市立西砂小学校

〒190-0034 東京都立川市西砂町2丁目34番地の2  
電話 042-531-2082 FAX 042-531-5269  
ホームページ <http://www.tachikawa.ed.jp/es12/>

交通機関・西武拝島線「西武立川駅」下車徒歩10分  
・立川バス 昭島駅南口発「松中団地操車場行」乗車、  
「西砂小学校前」下車

【学校教育目標】

- 思いやりのある子ども
- ◎自分の考えをもつ子ども
- 健康で明るい子ども

【生活指導の重点】

- ・月別生活目標の指導を通して、自律的な生活習慣を確立し、基本的な社会のルールを身に付けさせる。
- ・教育相談体制や研修を充実し、一人一人の子どもの理解を深め、全教職員でいじめや不登校の早期発見・対応に努める。
- ・安全指導の時間を有効に使い、学校内外の事故や問題行動等を未然に防止する態度を養い解決に努める。
- ・セーフティ教室・交通安全教室・避難訓練・校外パトロール・地域安全マップの作成などを計画的に実施し、児童の危機回避能力を培う。
- ・生活指導の充実を図るため、七中校区スタンダードを策定し、活用する。

【学校経営方針の柱から】

いろいろな人との関わりを通して、学習・生活の両面において、自分の考えをもち、それをすすんで発信し伝え合い、互いに高め合うことができる児童を育成する。

本校における「確かな学力」

- ①基礎的・基本的な知識及び技能
- ②思考力・判断力・表現力等
- ③学びに向かう力 課題発見・解決能力

基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等を育む。また、自ら問題を見だし、解決の方向性や解決方法を考え、結果を予測しながら実行し、振り返って次の課題発見・解決につなげていこうとする主体的に学習に取り組む態度を育成する。

【各家庭での取り組み】

- ◆立川七中校区家庭学習時間の励行（学年×10分）
- ◆SNS 家庭ルールの作成と実施
- ◆基本的生活習慣の確立（家庭内学習時間・場所の設定、TV・ゲーム機等の使用ルールの設定、読書の習慣等）

○学習指導要領

- 東京都教育委員会教育目標
- 立川市教育委員会教育目標

〈学校教育の指針〉

- 「学力・体力向上」
- 「特別支援教育の充実」
- 「小中連携教育の推進」

【道徳教育の指導の重点】

- ・全教育活動を通して、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養えるように指導する。
- ・「善悪の判断、自律、自由と責任」「親切、思いやり」「公正、公平、社会正義」「生命の尊さ」の内容項目を中心に児童の実態に応じた様々な工夫をし、児童の道徳性が養われるように工夫する。

【特色ある教育活動の重点より】

- ・豊かな言語活動を育むため「専門家による語り聞かせ」「朝の読書」「読書旬間」等、読書活動の充実を図る。
- ・地域力を活用した農業体験・栽培活動を全学年で実施し、高学年では「立川シビックプライド」「救急救命講習」に取り組む等、地域に学び、地域を愛する素地を養う。
- ・地域学校コーディネーターと連携し、地域の特性や地域の人材を活用した体験活動を通して、豊かな人間関係や社会性を培う。
- ・幼保小連携では、未就学児との交流活動を通して、児童には思いやりの心を育ませ、園児の入学後の円滑な適応を図る。

【小中連携教育活動を通して】

- ・中学校区として経営方針を共有し、義務教育9年間を通じた教育課程の円滑な接続（立川市民科・小中連携外国語活動等）を図る。
- ・定期的な管理職の会議や小中の教員による授業参観や研修会を通して児童・生徒の実態を共通理解し、教職員が相互に協力・連携した教育活動の推進を図る。
- ・園児との交流活動や近隣の幼稚園・保育園と教職員の研修参加及び授業・保育活動参観等の相互交流を通して、幼保小連携教育を進め、小1プロブレムの解消と円滑な接続を図る。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> <li>○「立川スタンダード20」を意識した授業に取り組む。</li> <li>○言語活動を充実させ、児童の思考力・判断力・表現力等を育み、伝え合う力の育成を図る。</li> <li>○朝の東京ベースック・ドリルタイムや朝読書の時間、及び放課後補習教室等を有効活用し、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○新学習指導要領の内容を理解し、各教科で取り組む。</li> <li>○適正な授業時数を確保し、計画的な教育活動を行う。</li> <li>○農業体験や栽培活動、キャリア教育など、地域の特性や人材を生かした教育活動を年間を通して計画的に位置付ける。（地域学校協働本部との連携）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICTを活用した授業づくりについて研修・研究を行い、かつICT専門員による支援も得て、授業実践に効果的に生かす。</li> <li>○校内研究、小中連携の際の授業参観等を通して、教師の授業力を向上させる。</li> <li>○相互授業参観（OJT週間や年間4回の校内OJTを設定）を核にして、校内におけるOJTを推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科の学習後、振り返り活動を行い、児童の自己評価力、相互評価力を高める。</li> <li>○評価規準を適宜見直し、適正な実施を図る。</li> <li>○学校運営協議会や地域、保護者による学校関係者評価や児童による授業アンケートを実施し、教育活動の改善に生かす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○積極的に学校を公開し、学校教育への理解を深めていただくとともに、地域の教育力を活用する。</li> <li>○夏季休業中に個人面談を設定し、児童の課題について知らせ、連携を図る。</li> <li>○HPや学校便り、学年・学級通信を通して発信し、連携を図る。</li> </ul>

## 1 本校の児童に身に付けさせたい資質・能力、目指す授業

新しい学習指導要領では、子どもたち一人一人に「生きる力」を育成するために、各教科等において、三つの資質・能力を育成することとされている。

- ・実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能
- ・未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力
- ・学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力

日々の授業での学びを通して、この力を一人一人の子どもたちに確実に育成するために、主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点から「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して以下のような授業を目指し、改善していく。

- ・日々の生活とのかかわりを意識した実生活に結び付く授業
- ・地域素材を生かした体験的な学習を取り入れた授業
- ・タブレットPCを活用し、情報活用能力やプログラミング的思考力を育む授業
- ・学んだことを全校や地域に発信する場面を意図的に取り入れた授業
- ・一単位時間や単元の指導においてのめあてを明確にし、児童が「わかった!」「おもしろい!」と思える授業
- ・自分の考えを発信し、伝え合うことで、新しい発見や豊かな発想が生まれる授業

## 2 本校の実態

明るく素直で優しい児童が多い。子どもらしく、気持ちの素直な児童も多い。学びに積極的な児童が多く、興味・関心をもって授業に取り組んでいる。しかし、人の話を最後まで聞くことができている反面、静かに聞いていても、話の内容をしっかりと理解できていないこともある。学年が上がるにつれ、板書を写すだけでなく、友達の考えを付け加えたり、聞いたことをメモしたりしながら、ノートを分かりやすくまとめられる児童も見られる。

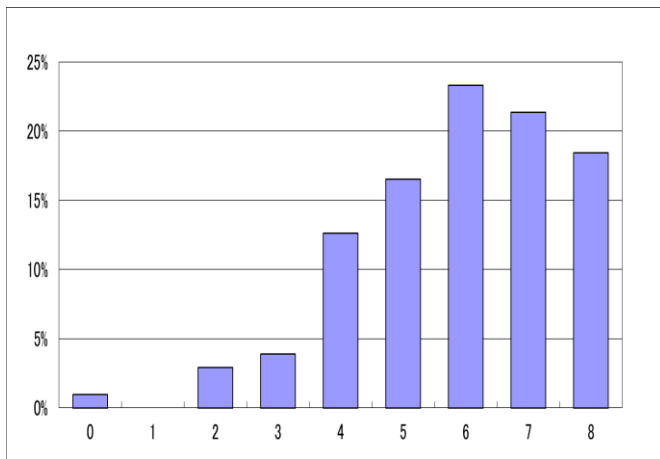
課題としては、自分の考えをもっているのに、発表には消極的な児童が多い。問題などを解く際に、急いでしまい問題文をよく読まずに解答してしまう児童や、漢字の読み書きや算数の四則演算では、前年度までの学習内容が定着していない児童も見られる。基礎・基本の定着を図り、自分の考えをのびのびと発表することのできる児童を育成できるよう日々の教育活動を推進していく。

### <東京ベーシック・ドリルの結果より>

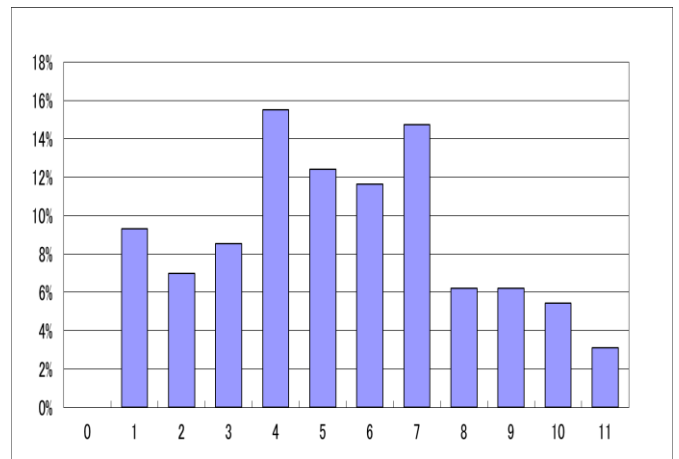
学校再開後に実施した東京ベーシック・ドリル第1回算数診断テストでは、2年生の全体の平均正答率が73.4%と高く、誤答が2問以内の児童も6割以上と多かった。次いで、4年生の全体の平均正答率が56.2%となっている。しかし、3年生は49%、5・6年生は共に46%台と50%を下回っている。学年が上がるにつれ、下位層の割合も増える傾向にある。休校が明け、学校が再開後、早い段階での実施ということもあり、全体的に正答率が低かったということも考えられるが、全体的に平均正答率が低いという結果になった。第1回の診断結果をもとに、間違いの多かった問題の解説を行ったり、基本的には毎週金曜日の朝に取り組んでいるベーシック・ドリルタイムの活用したり、習熟度別算数のコースによっては授業の最初の5分で復習をしたりするなど、知識面や技能面の再構築を図っている。

2年～5年 東京ベーシック・ドリル 第1回 算数診断テスト 正答数の割合

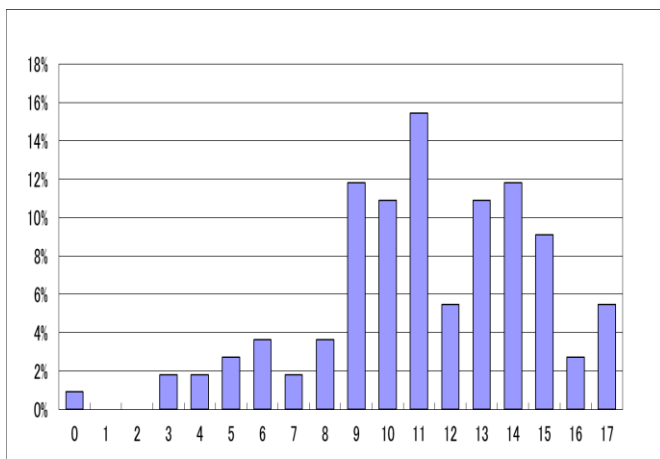
2年（実施人数：103名）



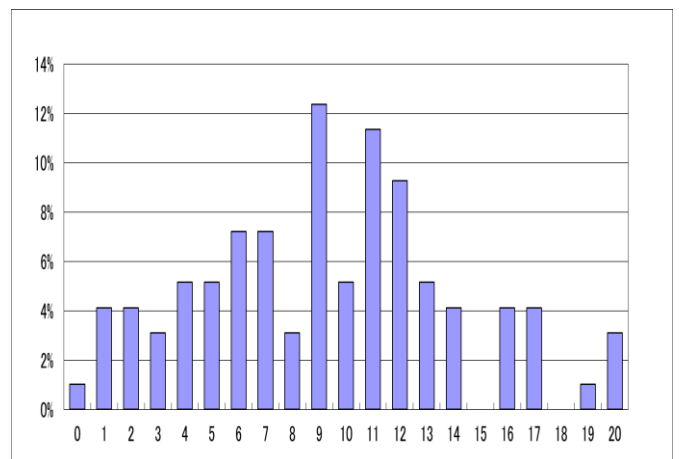
3年（実施人数：129名）



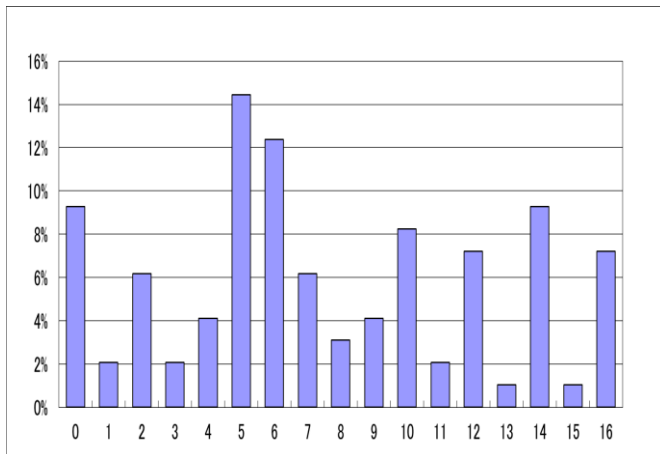
4年（実施人数：129名）



5年（実施人数：97名）



6年（実施人数：98名）



縦軸：正答数の割合

横軸：正答数

### 3 授業改善策

#### < 1年 >

	課題	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>平仮名の拾い読みをしている児童が数名いる。また、問題を読解（理解）する力が弱い。</li> <li>言葉の意味を考えながら文章を読む力が弱い。</li> <li>5W1Hの項目を理解し、話を作る力が弱い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活体験や読書活動を通して語彙を獲得させる。</li> <li>文型や話型を基に書いたり話したりする基本的な技能を身に付けさせる。</li> <li>基礎・基本になる語彙の表記を確実に定着させる。</li> <li>音読などを通して文章の内容を読み取る力を高める。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>加減法の計算は身に付けているが、複数の問題を解く際には、数問簡単な間違いをすることがある。</li> <li>問題をよく読まずに取り組み、解き間違いをする児童がいる。</li> <li>文章問題を解く際、答えを正しく書けなかったり、単位を付け忘れていたりする児童が複数いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の始めにフラッシュカードに取り組みせたり、プリント等を活用したりしながら繰り返し解かせることで基礎・基本の学力の定着を図る。</li> <li>具体物を用いて問題場面を再現することで、問題文の意味をしっかりと捉えさせる</li> <li>問題文にアンダーラインを引かせることで、問われていることを児童に捉えさせる。</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者に考えを伝えることに苦手意識をもち、表現方法が限定される。</li> <li>観察の対象をしっかり観察し、最後まで気が付いたことを表現できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>考える時間を確保する。</li> <li>様々な表現方法（クイズ、紙芝居、新聞、ポスターセッション等）を取り入れ考えを共有し、学び合いながら問題解決に向かわせる。</li> <li>観察の視点を明確にする。（大きさ、形、色、数、触った感じ、におい等）</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しんで音楽活動に取り組むことができたが、鍵盤ハーモニカの運指について今後練習する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しみながら取り組むことが一番なので引き続き楽器や体を使った表現活動を取り入れていく。</li> <li>鍵盤ハーモニカを使用する単元では、運指練習を毎授業中に20分は設定し、練習時間を確保する。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>用具を正しく使い、想像をふくらませて活動することに課題がある。</li> <li>最後まで仕上げようとしないであきらめてしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>用具の置き方や具体的な順序を視覚的に分かるように示す。</li> <li>よい作品の例を示したり、児童が作ったよい作品を紹介したりして意欲を高め、最後まで仕上げようと励ます。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>短縄の連続両足跳びが苦手な児童がいる。</li> <li>鉄棒を使った運動遊びに対して、苦手意識をもっている児童がいる。</li> <li>リズムよく走ることが苦手な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>跳び越す位置や動き方を示したり、かけ声によってタイミングを合わせることができるようにした。</li> <li>補助をしたり、伸ばす部位を助言したり、目線の先を示したりする。</li> <li>いろいろなリズムで走ったり、レーン上に目印を置いたりする。</li> <li>スモールステップで、簡単なものから提示して、楽しんで学習に取り組めるようにする。</li> </ul>

<2年>

	課題	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>文の要約（あらすじ等）を書いたり話したりすることを苦手としている。</li> <li>「は」「を」「へ」、促音、拗音の書き方が身に付いていない。</li> <li>カタカナが未定着で、普段もあまり使おうとしない子が多い。</li> <li>課題文を最後まで読まずに取り組んだり、理解しないまま取り組んだりすることもある。</li> <li>意見の交流はできるが、他者の意見を自分の考えと照らし合わせて考えていくことを苦手としている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>簡単なスピーチ的活動などを取り入れ、言いたいことをまとめることや、簡単に順序立てて話す活動を取り入れる。</li> <li>拗音、促音、カタカナなどを入れ作文する活動を繰り返し取り入れる。</li> <li>初め、中、終わりの型を意識させつつ文作りをさせていく。</li> <li>グループ発表やクラスに向けての発表の中で、どの部分が自分と同じで、どこが違うかをノートの工夫や付箋などを使い視覚的に考えさせる機会をもたせる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年で学習したたし算、ひき算と2年で新しく学習した筆算が身に付いていない児童がいる。</li> <li>「時こくと時間」の学習は「時こく」と「時間」を区別して問題を解決することができない児童が多い。</li> <li>学習に対しての蓄積が浅く、時間が経つと忘れてしまう児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計算ゲームなどを活用し、正しく計算できる力を付けさせる。</li> <li>日常生活の中で「時こく」と「時間」の違いを意識させる機会を多く設定し、2つの違いを区別できるようにする。</li> <li>プリントなどで繰り返し反復させる。</li> </ul>
生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>観察活動や体験活動は意欲的に取り組むが、そこから気付いたり、考えたりする力には個人差がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体験や活動の中から気付いたことを、友達や全体で交流することで、気付きの質を高められるようにする。</li> <li>身近な人々（友達や下級生、地域の方など）との交流活動を大切にしながら、事後に振り返りを丁寧に行うことで、自分のよさや自分の成長に気付くことができるようにする。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>意欲的に楽しんで取り組む児童が多い一方、苦手意識をもっている児童も一定数いる。</li> <li>鍵盤ハーモニカの指使いやタンギングの仕方には、個人差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽活動に楽しみながら取り組めるように、楽器や体を使った表現活動を積極的に取り入れる。</li> <li>鍵盤ハーモニカの学習を毎時間、帯で設定し、指使いやタンギングの定着を図っていく。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>なかなかアイデアが浮かばない児童がいる。</li> <li>自分がうまく絵などが描けないと思っている児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めから、オリジナルを創造するのではなく真似することから始めて自分にもできるという自信を付けさせる。</li> <li>教師が子どもの心に寄り添いながら、生活経験などを想起させこれならできるというものを一緒に探してあげる。</li> <li>友達と作品を見せ合いながら、良い所を具体的に挙げさせ、成就感、達成感を味わわせる機会をたくさん作る。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボールを投げたり、捕ったりことが苦手な児童が多い。</li> <li>雲梯やのぼり棒などができる児童が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボールを投げたり、捕ったりする機会をたくさん設定する。</li> <li>自分たちで意欲的に取り組めるように、授業以外でも使える学習カードを使い、日常的に運動に触れる時間を増やす。</li> </ul>

< 3年 >

	課題	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>考えとそれを支える理由や事例との関係や、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に考えることに課題がある。</li> <li>既習の漢字の定着に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主語と述語、修飾語や被修飾語の関係や、指示語や接続語などに着目しながら読めるように、大切な言葉や表現線を引いたり、印を付けたりさせる。</li> <li>ノート指導の際に、既習の漢字を使うように徹底する。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料から分かることを読み取る力の個人差が大きい。また、分かったことを自分の言葉でまとめる力に課題がある。</li> <li>方位など、学んだことを意識して生活することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べ学習や調べたことをまとめる学習を効果的に取り入れ、資料活用の力を育てる。</li> <li>方位や地図記号の知識を定着させるため、繰り返し練習する。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項の定着に課題がある。</li> <li>数量関係に着目し、計算の仕方を考えたり、計算に対して成り立つ性質を見いだしたりすることに課題がある。</li> <li>自分の考えを発表する際に、その考えに至った根拠を説明することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2年生までの内容については、苦手な所を分析した上で、東京ベーシック・ドリルを活用し、習熟を図る。</li> <li>立式する際に根拠を問う場面を意図的に設定する。</li> <li>自分の考えを発表する際の話型を提示し、その話型に沿って説明させる。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのような実験をすれば解決できるか予想を立てる力に差がある。また、自分の考えを発表する際に、その考えに至った根拠を説明できる児童が少数である。</li> <li>知識や技能面の定着に時間を要する児童が多い。また、問題文を正しく読んで解くことに課題がある。</li> <li>最後まで集中して話を聞くことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対して予想や結果をノートに書かせ、思考をめぐらせる時間を十分に確保する。また、理由を付けて説明する時間をつくる。</li> <li>音読の宿題に理科の教科書を出すことで、理科に触れる時間を増やし、知識の定着を図ったり、問題を文を正しく読むことを身に付けさせる。</li> <li>グループ学習で、聞く視点を示すことや質問させる機会を作ることで、聞く必要性をもたせる。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>リコーダーなど楽器の基礎的な演奏技能の定着に課題がある。</li> <li>曲想と音楽の構造との関わりについて、結び付けて感じ取ったり、自分の言葉で表現したりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リコーダーの学習を継続的に行い、基礎的な演奏技能の定着を図る。</li> <li>少人数や1人で吹く時間を設定し、個人の達成度を確認するとともに、個々で表現する経験を積み重ねる。</li> <li>感じたことを音楽の構造と結びつけて言葉で表現できるように、曲想を表現できる言葉や「音楽のもと」を掲示し、活用する。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>イメージしたことを形にするための手段が分からず、制作が止まってしまう場面が多く見られる。</li> <li>絵の具の基本的な技法が定着していない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な手だてを掲示したり、手本を示したりして、主体的に取り組めるようにする。</li> <li>用具の種類、使い方、並べ方、片付け方を、教科書の図版を見せながら理解させる。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>苦手な運動に対して消極的になってしまう傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の実態に応じて練習の場を工夫することで、安心して活動できるようにする。</li> <li>ICTを活用しながら、技のポイントをつかませる。</li> </ul>
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>人前での発表になると、消極的になる傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が声を出す機会を多く設定し、英語で話すことへの抵抗を少なくする。</li> <li>活動の形態を工夫して、児童が互いに良いところを認め合う活動を取り入れる。</li> <li>児童に繰り返し発音させるだけでなく、質問したり答えたりしたくなるような必然性のあるやり取りの場面を設定することで、児童が主体的に楽しく活動に取り組めるようにする。</li> </ul>

< 4年 >

	課題	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文において、中心となる語や文を見つけて学習課題にそって要約する技能が不十分である。</li> <li>・物語文において、友達の考えを聞いたり、学んだりしたことをもとに、学習課題にそって自分の考えや感想をもつことに課題がある。</li> <li>・既習漢字を文の中で使うことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キーワードを見付ける観点や要約モデル文を提示する。各段落に小見出しを付けさせ、読み取った内容と関連させて一文要約につなげる活動を行う。</li> <li>・毎時間、学習課題に対し自分の考えをしっかりと表現させる。授業の最後に振り返りの時間を設定し、学習後の自分の考えの変容や友達の考えのよさを書かせる。</li> <li>・ノート指導や作文、新聞などを書く活動の中で、既習の漢字を使うように徹底する。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料と資料を関連させて考えることが苦手である。</li> <li>・資料のデータを基に推測することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題解決に適した映像資料や分かりやすいグラフなどを準備し、資料の読み取り方の指導を徹底する。</li> <li>・資料から読み取れる事実と学習課題に正対した考えを書かせる活動を設定する。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えを言葉で表現することに課題がある。</li> <li>・平面図形に関わる知識や作図の技能に課題がある。</li> <li>・問題場面の数量関係に着目して立式することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吹き出しやナンバリング等、表現の仕方の参考となる例を示す。</li> <li>・作図に関わらず知識、技能習得の学習では、学習事項を生かして問題を解く時間を設定する。</li> <li>・立式の根拠を明らかにする学習活動を設定する。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科学的根拠をもとに実験の結果を予想することに課題がある。</li> <li>・学んだことを生活に生かしたり結びつけたりすることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予想を考える時には必ず理由を付け加えるように指導する。</li> <li>・教科の枠を超えて理科で学んだことを他教科で使えるように意図的に声掛けをする。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造との関わりについて、結び付けて感じ取ったり、自分の言葉で表現したりすることに課題がある。</li> <li>・曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダーの学習を継続的に行い、基礎的な演奏技能の定着を図る。</li> <li>・少人数や1人で吹く時間を設定し、個人の達成度を確認するとともに、個々で表現する経験を積み重ねる。</li> <li>・様々な表現方法を試しながら、ふさわしい表現を選択し表現できるようにする。</li> <li>・感じたことを音楽の構造と結びつけて言葉で表現できるように、曲想を表現できる言葉や「音楽のもと」を掲示し、活用する。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>・客観的な自己評価や相互評価を行う事に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の作例や授業作品を通して、自分の作品の良さに気付かせ、他者の表現活動のよさや美しさを感じ取らせる。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技のポイントを意識して取り組むことに課題がある。</li> <li>・苦手な運動に対して消極的になってしまう傾向がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用して、技のポイントをつかませる。</li> <li>・段階的に練習できる場を設定し、安心して活動しつつ、技能を高められるようにする。</li> </ul>
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師やALTの英語を注意深く聞いて積極的にまねしたり、聞き取ったりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単語やセンテンスを何度も繰り返し聞かせ、全体から個へ発話する機会を意図的につくり、その都度評価して自信をもたせるようにする。</li> </ul>



< 5年 >

	課題	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>言葉の意味を理解して正しく使ったり、既習の漢字を読んだり書いたりする力が定着していない。</li> <li>全体交流において、話し手の意図をふまえて質問したり自分の考えを伝えたりすることに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>書き順、形、意味等を丁寧に指導することで漢字に対する児童の興味・関心を高めるとともに、漢字テストでの採点基準を明確にし、気を付ける点を意識させる。</li> <li>相手の考えをよく聞いた上で、自分の立場や根拠を明確にした話し合い活動を展開する。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>都道府県、近隣諸国の国名や6大陸、3海洋の名称や位置が定着していない。</li> <li>資料から気付きを得ることはできるが、その情報について自分の考えをもったり、工夫を考えたりすることが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地図帳を効果的に活用する。</li> <li>資料から読み取った情報に対して、「なぜ」、「どうして」と、理由を考えさせる問い返しを意識して行う。</li> <li>既習事項と結び付けたり、何かと比較したりして考える力を伸ばす。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>「知識・技能」において習熟度に関きがある。</li> <li>文章問題の立式をはじめ、具体から抽象に置き換える「思考・表現」が苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>習熟度別クラス編成を生かし、手だてを充実させ、「知識・技能」を向上させる。</li> <li>図、言葉を使って説明し合う時間を増やす。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>条件制御を考えながら実験を計画していくことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の創意を生かしながら、条件制御の考え方を対話的に身に付け、自ら実験を計画できるようにする。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>パートなど少人数の学習の中で、意見を交わしながら表現を工夫することに課題が見られる。</li> <li>曲想と音楽の構造との関わりについて、結び付けて理解したり自分の言葉で表現したりすることに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペア学習やグループ学習を通して、表現を互いに聴き合い、それぞれの表現のよさを認め、深められる場を設定していく。</li> <li>曲想や楽曲の感じを表す言葉を増やし、どのような音楽表現にするかについて、自分の言葉で思いや意図をもたせられるようにしていく。</li> <li>感じたことを音楽の構造と結びつけて言葉で表現できるように、曲想を表現できる言葉や「音楽のもと」を掲示し、活用する。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者の作品や表現活動からよさや美しさを感じ取る力に課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の作例や友達の作品、芸術鑑賞教室等から多様な表現活動を知り、よさや美しさを感じる機会を多く設定する。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活と結びつけて捉えたり考えたりできる児童と、そうでない児童の差が大きい。そのため、主体性や知識の理解の差も開いてしまっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実体験が少ない児童も積極的に授業へ参加できるように、具体的な場面設定をしてロールプレイングをしたり、具体物や視覚教材を活用したりする。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>短距離走やマット運動をはじめ、各種運動の行い方の定着や運動に対する「思考・表現」に差が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎時間自分の体力を踏まえたためあてをもたせたり、教師や友達と対話的に学んだりできるようにする。</li> </ul>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>自信をもって英語で表現することが課題である。</li> <li>A L Tの英語で理解しようと努める児童が少ない。</li> <li>特に、小文字のアルファベットを書くことが苦手である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「伝えようとする事」が大切であることを繰り返し伝え、反復練習の時間を十分に取る。</li> <li>授業中にも単語などを書く時間を意図的に設定する。</li> </ul>

< 6年 >

	課題	授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的や意図に応じて自分の考えを話したり、文章にまとめたりすることに課題が見られる。</li> <li>既習漢字を日常的に使う習慣が身に付いていない児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話型を提示する。</li> <li>漢字50問テストでは、合格点が取れるまで再テストを行い、定着を図る。授業中の課題や宿題など、既習漢字を使うよう日常的に指導をする。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な資料を教科書や資料集から見付けたり、必要な情報を読み取ったりすることが苦手である。</li> <li>人物名、業績、時代背景などの知識が定着していないところがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調べたい課題を明確にさせてから調べ学習に取り組ませ、見付けたことを友達と伝え合う活動を取り入れる。</li> <li>年表を活用したり、調べたことを視覚化したりしていくことで、人物を中心とした業績や時代背景のつながりを意識しながら学習できるようにする。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>前学年までの既習事項の定着に課題があり、特に数と計算の領域でつまずきが見られる。</li> <li>問題場면을正しく把握し、立式することに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京ベーシック・ドリル等を活用して、定期的に既習事項の復習をする時間をとる。</li> <li>数直線や図や言葉を活用し友達に伝え合う活動を通して、根拠をもって演算決定できるようにする。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>「人や他の動物の体」では、臓器の位置や役割についての理解に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の資料だけではなく、映像や模型などを活用する。</li> <li>知識を定着させるための練習問題を用意する。</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>パートなど少人数の学習の中で、意見を交わしながら表現を工夫することに課題が見られる。</li> <li>曲想と音楽の構造との関わりについて、結び付けて理解したり自分の言葉で表現したりすることに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペア学習やグループ学習を通して、表現を互いに聴き合い、それぞれの表現のよさを認め、深められる場を設定していく。</li> <li>曲想や楽曲の感じを表す言葉を増やし、どのような音楽表現にするかについて、自分の言葉で思いや意図をもたせられるようにしていく。</li> <li>感じたことを音楽の構造と結びつけて言葉で表現できるように、曲想を表現できる言葉や「音楽のもと」を掲示し、活用する。</li> </ul>
図工	<ul style="list-style-type: none"> <li>発想や構想の力を十分に発揮することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な作例を多く提示し、友達の表現や伝統的な文化財等から、よさや美しさを感じ取り、自らの表現活動に生かせるように支援する。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>知識の理解が十分な児童とそうでない児童の差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>実生活を想起しやすい教具や教材を用い、学びを生活へ結びつけやすくしていく。</li> <li>考えや意見を交流する場面を多く設定し、互いに学びを深められるようにする。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動が好きな児童とそうでない児童、得意な児童とそうでない児童が二極化している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動のよさや方法について分かりやすく説明し、児童が運動の取り組み方について理解できるようにする。</li> </ul>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>自信をもって表現することに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデルを示したり、チャンツに積極的に取り組ませたりすることで、英語表現に慣れ親しませる。</li> </ul>